

校舎配置比較検討資料

			A 校舎病院側案	B 校庭病院側案	C その他 1	D その他 2 (1の左右逆)												
配置図案 																		
No	項目	条件																
校舎環境	1 広さ(延べ床面積)	7500㎡以上 プールは屋外	約7700㎡(プール除く)	約7800㎡(プール除く)	約7800㎡(プール除く)	約7800㎡(プール除く)												
	2 階高	建築面積2700㎡以下	4階(屋上にプール及び更衣室と機械室)	5階建て	4階(屋上にプール及び更衣室と機械室)	4階(屋上にプール及び更衣室と機械室)												
	3 普通教室配置	十分な日照のある位置に配置	校庭向きに15室、窓は東北向き。	校庭向きに15室、窓は西南(病院側)向き。	校庭向きに15室、窓は東南向き。	校庭向きに15室、窓は西北向き。												
	4 普通教室採光		午前の採光は良。午後にかけて陰る。	朝は陰り、午後にかけて採光は良。	午前の採光は良。午後にかけて陰る。	朝方の採光は良。午後から陰る。												
	5 車両アクセス	給食用に1箇所以上	相互通行道路のみ	一方通行道路のみ。地盤面の高さ(GL)を上げるため、スロープ等必要	相互及び一方通行道路に面する	相互及び一方通行道路に面する												
校庭環境	7 広さ	2000㎡以上	約3000㎡。※現1.67倍	約3200㎡。※現1.78倍	約2300㎡ ※現1.28倍	約2500㎡ ※現1.39倍												
	8 トラック	100mトラックと50m走路	100mトラック 周囲に余地あり	100mトラック 周囲に余地あり	100mトラック 周囲に余地なし	100mトラック 周囲に余地なし												
	9 日照(冬至)		午前中は良。午後にかけて陰る	午前中は良。午後にかけて陰る	午前中は良。午後にかけて陰る	常に一部又は概ね全体が陰る												
	10 見通し		普通教室、職員室等から全周を確認できる	普通教室、職員室等から全周を確認できる	校舎端に死角あり	校舎端に死角あり												
	11 車両アクセス	校庭整備用に1箇所以上	一方通行道路のみ。アクセスし易い。	相互・一方通行道路に面する。アクセスし易い。	一方通行道路のみ。アクセスし難い。	一方通行道路のみ。アクセスし易い。												
近隣住居への影響	12 校舎からの音		住居に隣する教室開口部が少なく、音の影響は最も少ない。特別教室は病院側。	特別教室等が住居側に開口部を有する。プラスバンドなどの練習に対し配慮が必要。	特別教室等が北住居に隣して開口部をある程度有する。プラスバンド練習は配慮が必要。	校舎の特別教室等が南住居に隣して開口部をある程度有する。プラスバンド練習は配慮が必要。												
	13 校庭からの音		住居に対しては、図中の左右、上の3方に漏れやすい。	住居に対しては、図中の左右の2方に漏れやすい。なお、拡声器は病院棟の反響に配慮を要する。	住居に対しては、図中の上・右の2方に漏れやすい。	住居に対しては、図中の上・左の2方に漏れやすい。												
	14 日影		冬季 校舎周辺の図左に日影となる部分がある。	冬季 校舎周辺の図左上に日影となる部分がある。	冬季 校舎周辺の図左と上部の一部に日影となる部分がある。	冬季 校舎周辺の図左の一部と上の部分に日影となる部分がある。												
	15 砂埃	防塵仕様	人工芝・舗装等防塵対策を行うため影響はない	人工芝・舗装等防塵対策を行うため影響はない	人工芝・舗装等防塵対策を行うため影響はない	人工芝・舗装等防塵対策を行うため影響はない												
水害・震災	16 避難所アクセス	体育館、校庭	校舎が相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。体育館はやや上勾配。高台に向かって避難。	校舎が一方通行道路に面するため、車両にアクセス制限が出る。体育館は下勾配。低地に向かって避難。	校舎が相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。体育館は上勾配。高台に向かって避難。	校舎が相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。体育館は上勾配。高台に向かって避難。												
	17 浸水対策	校舎及び体育館	校舎位置側が用地で最も高い。校舎が壁となる近隣への逃げ水の恐れが少なく、校舎への浸水対策も容易。	校舎位置側が用地で最も低い。浸水対策による安全確保は可能だが、近隣への逃げ水の恐れがでる。	校舎端は高い。校舎が壁となる近隣への逃げ水の恐れが少なく、校舎への浸水対策も容易。	校舎端は高い。校舎が壁となる近隣への逃げ水の恐れが少なく、校舎への浸水対策も容易。												
18	雨水流出抑制		校庭が低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。	校庭が高い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設も、東側には効果が出にくい。校庭を切り下げる場合、道路面に1m前後の段差ができる。	校庭が低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。	校庭が低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。												